1133 甲状腺腫瘤とその周囲の甲状腺におけるヨウ素代謝の検討

今西好正，栗原宜子，水谷和正，川添修身，藤川光弘（聖マ医大東横 放）下川光博（同横西 画）辻野大二郎（同 内）

新しいCT softwareにより甲状腺のヨウ素濃度が簡単に測定できるようになった。そこで今回、甲状腺腫瘤及びその周囲甲状腺のヨウ素濃度，病理組織所見，^{123}I thyroid scintigraphyの所見を詳細に比較検討した。対象は、手術により病理診断がなされた84症例108結節であった。結節内ヨウ素濃度は、濾胞腺腫ではさまざまな濃度のものが存在した。腺癌ではある程度以上のヨウ素濃度を示しており、組織学的分化度とヨウ素濃度の間に明らかな相関はなかった。^{123}I thyroid scintigraphyでの cold noduleは、さまざまなヨウ素濃度を示していた。甲状腺腫瘤が warm, semi-hot, hot noduleを示した要因として、腫瘤自身の核種取込み亢進，合併した周囲甲状腺の慢性甲状腺炎，甲状腺低形成が考えられたので報告する。

1134 バセドウ病の甲状腺重量測定ー超音波による簡便な算出法ー

金谷信一、日下部きよ子、金谷和子、野尻陽子、福島理枝、井口信雄、小林秀樹、牧正子（東女医大放）

バセドウ病のRI治療前の甲状腺重量測定は、$^{99m}TcO_4^-$を用いたシンチグラムからAllen-Goodwin法で算出しているが、過小評価される例がある。そこで超音波を用いた簡便な算出法を開発したので報告する。超音波（7.5MHzリニア型、5MHzコンベックス型プローベを使用）の画像を実物大に拡大し、（短軸横断面像面積/長軸縦断像の最大厚）の係数を求め、この係数に長軸縦断面像の厚さを5mm間隔で乗じて総和を求めた。12症例（術後再発3例）の各々左右葉について、シンチグラム法と超音波法と比較した結果、相関係数0.9、回帰曲線y=0.8x+5を得た。超音波による重量測定は、厚みのある変形した甲状腺の計測に優れていた。

1135 甲状腺癌に対するエタノール局注療法

中原 浩、野口 志郎、原尾 基継 （野口病院）
星 博昭、陣之内 正史、長町 茂樹、大西 隆、二見繁美、渡辺 克司（宮医大 放）

手術にて摘出不可能、または^{131}I治療の無効だった甲状腺癌に対しエタノール局注療法を施行した。対象は15症例（男性1例：女性14例、年齢58～80才）20病変で組織型は分化型癌が11例、未分化癌が2例、両者の混在する症例が2例である。このうち未分化癌または未分化癌の合併例は病巣の制御は困難であった。しかし分化型癌ではCR 2例、PR 6例、NC 3例と比較的良好な結果をえた。副作用として皮膚の障害が4例ほどに見られたが、腫瘍のサイズ縮小やサイログロブリンの低下などは術中照射とほぼ同等の結果をしめした。エタノール局注療法は術中照射療法とともに非根治の分化型甲状腺癌の制御に有効な手段と考えられた。

1136 ファンビームコリメータによるTl-201甲状腺Dynamic SPECT

小野寺敦、有馬昭、奥山武雄（船橋医療センター 放）

我々は前回総会（甲状腺）にて、Tl-201甲状腺のDynamic SPECT（連続反復回転）の利用が、質的診断に有用である事を報告した。しかし、投与量の制限・臓器が小さい事などにより、情報量（計数）が乏しい問題があった。そこで今回、従来のLEHRコリメータに比べ約 1.5倍の感度をもつファンビームコリメータを使用し、前回と同様にプラナー像も含め比較検討した。また、経時的な断層像を、より客観的に、Tl-201残存度の表現をする目的で、これを、3次元表示や2次元極座標表示に応用し、立体的なウオッシュアウト観察を、試みた。ファンビームコリメータの利用は、投影データの計数が多くなるため、信号対雑音比(S/N比）が良くなり、Tl-201甲状腺におけるDynamic SPECT の有意性を向上させることができた。

Presented by Medical*Online